

石田祐貴講師への質問と回答

- ① 「何かできることはありますか？」等、さりげない声かけをどう思われますか？
(ありがためいわくなどは、ありませんか？)

当事者によって様々で一概には言えませんが、僕は良いと思います。一方で、こちらの意見を聞かないで、自分の経験や考えだけで決めつけて何かされると困ってしまうことがあるので、はじめにそのような一言があるととても助かります。

もしかしたら、何も困ってなくて「大丈夫です」と言うこともあると思いますが、断られたからといって「ありがためいわくだったかな」と気にする必要はないと思います。そのような声かけは歩み寄りの第一歩だと思いますし、ありがためいわくだとは僕は思いません。

- ② 私の妹も身体障がい者です。私は、小中学校と妹を支えてきましたが、講演で石田先生は1人っ子とお聞きました。小さい時、支えてもらえるお兄ちゃんやお姉ちゃんが欲しいと思ったことはないですか？

欲しいと思ったことがあります。特に小学校などの小さい頃は、同じ学校にお兄ちゃんやお姉ちゃんがいることで、学校生活を過ごす上で心強い部分あったんじゃないかなと思います。(個人的には、優しいお姉さんが欲しかったです…笑)

- ③ 今の大学院ではどんな勉強、研究をされておりますか？もう少し詳しく教えていただけないでしょうか？

障がいのある子どもたちの教育に関する勉強をしております。その中でも、自分自身が聴覚障害であることも関係して、主に聴覚障害児・者の教育支援のあり方を探る研究に取り組んでおります。

- ④ 私も視覚障害があり、小学校などでお話する機会があります。その時、子供たちから、純粋な気持ち(悪気なく)で、自分の病気や障がいについて質問されることがあります。石田講師は、そのような質問に対してどのように対応されていますか？

子どもたちは本当に純粋なため、ストレートな反応や質問を受けることは多くあります。時には傷つくような言葉を言われることもあります。そのような反応もまた「子どもらしい」と思い、笑顔で受け止めるようにしています。

子どもたちと関わる時は、あまり難しいことを言っても伝わりにくいので、わかりやすく簡単な言葉で自分の疾患について説明した後に、「世界には僕みたいに色々な人がいるんだよ、仲良くしようね」というように、子どもと仲良くなることを第一に考えながら触れ合うように心がけています。

⑤ 講演で話して頂いた以外で、大切にしている言葉や先人の方があれば教えてください。

『何事にも挑戦し、様々なことを経験する』と意識を常に持つように心がけています。新しいことや環境に挑戦する時、誰しも怖気づくことがあると思いますが、「覚悟」して一步踏み出すように努めています。そうすることで、結果がどうであっても何か得られるものがあると思っています。その得られたことは、次の機会に活かすことができ、その積み重ねによって人として成長できると信じているからです。

⑥ 中学時代に引きこもりの時期があったとお聞きしましたが、そのような辛い悩みや困難な状態の時に、乗り越えるヒントのようなものはないでしょうか？

僕の場合は、「今抱えているのはどのような悩みや困難で」、「それがなぜ起こっているのか」、「それを解決・防ぐためにはどのような方法があるのか」ということを、整理して考えて実行することで乗り越えてきたように思います。

このような作業はとても時間がかかるかもしれませんが、時間がかかっても良いと思います。自分が前を向いて歩み始めることができるまで、何かそのようなきっかけが得られるまで、考える時間も大切にしたいと思います。

⑦ トリーチャーコリンズ症候群以外に、見た目の問題を抱えている方々がたくさんいらっしゃると思いますが、その方達にどのようなことを伝えたいですか？

講演の中でも話をさせていただいたように、「自分の変えられないこと」ではなく「自分の変えられること」に目を向けて欲しいなと思います。このように意識を変えることで、少しずつ周囲にも変化がみられると思いますし、自分の生活も充実していくのではないかなと思います。

もう一つは、見た目問題に関係なく全ての人に言えることだと思いますが、「自分が熱中できること」をみつけて欲しいなと思います。自分の生活も充実すると思いますし、そのことを通じて人間関係も作りやすく広がると思います。